

国立公園の河川

流域の環境

阿寒摩周国立公園の河川は、この地域に生息する植物や動物にとって不可欠です。川は森を流れ、多くの湖をつなげて、海へ流れ出ています。この川が、阿寒地方の原始の水系を垣間見せてくれます。

川は、新鮮な春の水と共に流れ、様々な自然環境を育みます。河岸沿いには、植物が密生し、湿地帯にまで広がっています。森は、過剰な水を留めて、川の氾濫を防いでいます。

生態系

このような、森と川の独特な相互関係のおかげで、様々な生命体がたくさん育っています。川は、トビケラのような水生昆虫や、アメマス、ハナカジカのような魚類、シマフクロウ、ヤマセミのような魚食鳥類の生命を維持しています。それに加えて、川は森に水と豊富な栄養を与えています。河岸でよく見られる他の動物は、エゾシカ、ヒグマ、トンボ、チョウなどです。

阿寒地方の主な川の1つは阿寒川です。長さ98キロで、滝口地域で阿寒湖に源を発し、釧路方面へ南下して太平洋へと注いでいます。イベシベツ川は、阿寒湖に流れ込んでいる多くの川の1つです。産卵期には、ヒメマスが産卵のために、流れに逆らってこの場所に戻ってきます。オンネトー湖から流れる螺湾川もまた、魅力的な水系です。ここでは、高さ3メートルにまで成長するラワンブキという種が生育しています。